

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

- [2561] トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出
《TaqManPCR法》

受託開始日

- 2022年7月1日（金）

トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出 《TaqManPCR法》

腔トリコモナス (*Trichomonas vaginalis*) は、男性では尿道炎、女性では膣炎を引き起こす原虫です。腔トリコモナスを原因とする腔トリコモナス症は主要な性感染症の一つです。診断には、光学顕微鏡で運動性の腔トリコモナス原虫を確認する鏡検とトリコモナス選択培地による培養法が用いられていますが、鏡検は虫体数が少ない場合などで見落としを生じる可能性があります。また、培養法は感度が高いものの、結果判明までに時間を要することが課題となっています。

マイコプラズマ・ジェニタリウム (*Mycoplasma genitalium*) は、男性では尿道炎、女性では子宮頸管炎や骨盤内炎症性疾患を引き起こす細菌です。マイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の症状は多岐にわたり、自覚症状も強いものから軽微なものまでであるため、症状からマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を診断することは困難とされています。マイコプラズマ・ジェニタリウムは臨床検体からの培養が極めて難しく、核酸増幅検査はこれまで保険適用外でした。近年では、薬剤耐性を有する症例の増加が問題視されています。

本検査はリアルタイムPCR法により、性感染症の原因微生物である腔トリコモナスおよびマイコプラズマ・ジェニタリウムを迅速に検出します。腔トリコモナス感染またはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染の診断補助検査として2022年6月に保険適用されました。

検査要項

項目コード	2561
検査項目名	トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出《TaqManPCR法》
検体量 / 保存方法	初尿 4.5mL ^{*1,3} [容器番号：86番] / 冷蔵 または ぬぐい液 ^{*1,2,3} [容器番号：85番] / 冷蔵
検査方法	ロシュ・リアルタイムPCR法
基準値	トリコモナス 検出せず マイコプラズマ・ジェニタリウム 検出せず
報告様式	検出せず/陽性/判定不能
所要日数	2~4日
検査実施料	350点 ^{*4}
判断料	150点(微生物学的検査判断料)
備考	<ul style="list-style-type: none"> *1：専用容器は、あらかじめご依頼ください。 *2：検体採取部位は、膣または子宮頸管です。 *3：<u>検査材料が初尿または子宮頸管ぬぐい液の場合、同一検体で[2155]淋菌核酸同定《TaqManPCR法》および[2154]クラミジア・トラコーマチス核酸同定《TaqManPCR法》との重複依頼が可能です。</u> *4：腔トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性または実施できないものもしくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して治療法選択のために実施した場合および腔トリコモナス感染症またはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して治療効果判定のために実施した場合に、[D023]微生物核酸同定・定量検査の「10」HPV核酸検出の所定点数を準用して算定できます。